

論壇

大きな額の社会的コスト

「日本人はサービスを無料だと思っている。だからサービス産業がなかなか育たない」。こうした指摘があることを聞いたことがある人は多いだろう。確かに、日本語では、サービスという言葉に無料というような意味が含まれている。店で商品を購入した時、「これサービスで付けておきます」と言われれば、それを無料でもらえるという意味だ。

ただ、サービスに対価を払うという気持ちが弱いことが、結果的にサービス産業を歪めてしまっていることになる。まだ固定電話が中心の

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

時代なので大分前のことだが、米国で電話の番号案内の無料サービスの社会的コストの計測をした研究者がいた。当時は、米国でも日本の104に対応するような番号にかければ、無料で電話番号案内のサービスを受けることができた。

ただ、電話番号案内をするため

サービス有料化の流れ

には、それなりの人材を投入する必要があるので、そのサービスをタダで提供するということは、電話会社がその費用を全て負担するということになる。もちろん、最終的にはその費用は電話料金の他の部分で利用者が負担することになる。問題は利用者が、番号案内は

硬貨を用意したり、そのための人員や設備を確保したりするに、それなりのコストがかかっている。それでも無料でサービスを提供することが本当によかったのだろうか。私はむしろ有料にした方が良いのではないかと考える。

タクシーがわりの救急車

サービスの有料化について、もう少し微妙な問題もある。例えば救急車の費用などはその典型だ。病気や怪我という緊急事態であるし、税金を払っているのだから、救急車を無料にするのは当然だと考えている人も多いだろう。

ただ、現場の人の話を聞くと、病院に行くためのタクシーがわり

に救急車を利用するような人もいらっしゃる。どのような場合に救急車を利用すべきか、その範囲を決めるのは難しいところもあるが、タダなのだから利用するのは当然と考える人も多いようだ。

言うまでもないが、救急車を運用するには費用がかかる。それが乱用されれば、本当の意味で救急車が必要な時に、それがなかなか確保できないこともある。急病や怪我で本当に救急車が必要な人も払おうとするだろう。問題なのは、深刻な状況でもないのに、タダだから利用しようという人の存在だ。それを排除するために、は有料ということも考えられるが、皆さんはどう考えるのだろうか。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。